

私は今、髪をのぼしています。中学一年生の6月に受験期にずっとのぼしていた胸下ぐらいのロングヘアをばっさり切ってショートに近いボブヘアにしてからです。何故かわからないのですが、昔から髪をのぼしてから肩につかないぐらいまで切るのが好きで私は幼少期からそれをずっとくり返しています。一気に切って頭の回りや肩が軽くなる感覚はどことなく楽しく不思議なものです。経験したことがある人は少なからずいるのではないのでしょうか。

そんな私に母が勧めてきたのは“ヘアードネーション”でした。ヘアードネーションとは簡単に述べると自分の切った髪の毛を寄付することです。頭皮、頭髮に関わる病気が原因で髪の毛を失ってしまいウィッグを必要としている子供達に無料で提供するというものです。大人用のウィッグは子供には大きすぎるためテープで留めなくてはならなかったりオーダーメイドで一から作るととても費用が高くなってしまうことからヘアードネーションは生まれたそうです。私は初めてこれを聞いたとき、とても衝撃を受けました。自分のいらないと思った髪の毛でさえ必要としている人がいるのだと感じました。同時にもしかしたら世の中に本当にいらぬ物なんてないのかもしれないとも思いました。ヘアードネーションに興味を持った私は是非やってみたいと思い、インターネットで詳しく調べてみることにしました。調べてみるとヘアードネーションをするにあたっての条件はとて少なく、需要と供給が一致していないことを痛感させられました。パーマがかかっているカラーが入ってあってもいいということ。ひっぱってのびてしまうようなよっぼど痛んでいる髪の毛でなければいいということ。ヘアードネーションの支援団体にもよりますが、最低でも15センチから31センチあればいいということでした。五十センチ以上あってもロングヘアにしたい子のためになるというので、私は極力のぼすことに決めました。私は飽き性でのぼしたとしてもいつも胸下あたりで切ってしまうのですが、今回はたくさんぼそうと思います。

私はヘアードネーションのみならず寄付やボランティアは今の世の中で不可抗力的な不均衡、つり合いがとれなくなってしまう事を均すための行為だと思います。強要される事はなく、明確な線引きのない広い意味でいう思いやりです。決して見返りや感謝を求めることなく無理せずたくさんの方が多方面でほんの少しでも寄付やボランティアをすればどうやっても存在してしまうようなアンフェアな社会をフェアにできるのでは、と思います。だからつい見返りを求めてしまうような高額を募金する必要性も貧血になりやすい人が献血をする必要性もないと思っています。ほんの気持ち、が寄付へと形が変わるのではないのでしょうか。

中には偽善者、自己満足、心の中で相手を見下しているのではないかと言う人もいるかもしれませんが、しかし、偽善でも自己満足でも誰かの役に立っていることは確かであり、寄付やボランティアした人の気持ちに関係なく胸をはっていいと思います。人の行為に文句を言っている人は結果的に何も動いていない訳ですから。最後に今回のこの私の感話を通して

一人でも多くの方がヘアードネーションに関心を持ち、私もやってみようかな、なんて思ってくれたら幸いです。